

会 議 録

1 会議名

平成30年度第1回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成30年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成30年5月16日（水）午後7時00分から午後8時08分まで

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林奎一、佐藤寿美子、
佐藤峰生、坪田 剛、寺島和枝、荷屋和夫、樋口清和、平野宏一、
山田ヒロ子、横田正美

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、千田主任

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：佐藤寿美子委員に依頼

議題【協議事項】平成30年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・本日の協議の流れについて説明
- ・資料「平成30年度 谷浜・桑取区地域活動支援事業提案書受付一覧（担当課所見あり）」に基づき説明

【高橋会長】

事務局の説明を受け、提案No.1から順に各委員の意見等の質疑を求める。

最初に「No.1 谷浜・桑取地区高齢者いきいき支援事業」について、質疑を求める。

【樋口委員】

過去に同様な提案はなかったか。

【高橋会長】

以前、簡易シートを敷き、屋内練習場を整備する事業を提案されたかと思う。簡易シートでは支障がでてきたため、今回、人口芝を敷くという提案がされていた。その点を含め事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

平成28年度に地域活動支援事業を活用している。旧桑取小学校の体育館にカーペットを敷いたが、材質が薄かったため、破損してしまった。また、ボールの転がりも悪いことから、今回新たに人口芝を敷きたいということで提案された。

今回の人口芝については実際にサンプル品で試したところ、ボールの転がりも良好とのことである。

【高橋会長】

桑取地区は、ゲートボールの参加者が多い。有間川地区は10人いるかどうかであるが、桑取地区はどんどん新しい人たちが加わっている。大変ありがたいことであるが、この補助が適切かどうかは別問題として考えている。

【安達副会長】

旧桑取小学校を使用するということだが、そこにはトイレも水道もないが、支障はないのか。

【佐藤寿美子委員】

旧桑取小学校を利用するのは2～3時間であるから、支障はないとのことであった。

【高橋会長】

事前に桑取分館を利用していけば良いかと思う。

【荷屋委員】

平成28年度もそのような話があった。そこでは桑取分館を利用する、という話となっている。

【高橋会長】

トイレの件については、あらかじめ了解済みである。今回はカーペットが破損したので、人口芝を購入したいということであった。内容については、ヒアリングの段階で、必要があれば聞いていただきたい。

次は「No.2 地域の歴史的建造物活用事業」についてだが、茶屋ヶ原町内会から提案されている乳母獄神社に隣接する舞台の活用についてである。宗教活動とは切り離し、地域の文化的な意義、地域交流の促進が目的の事業である。この提案についての意見等を求める。

【荷屋委員】

大変古く、歴史もあるが、今まで何も手を掛けてこなかったのか。

【千田主任】

提案者より、以前町内で寄付金を募り1回修繕をしたという話を聞いている。

【山田委員】

そこでは毎年、祭りなどを開催し舞台を活用しているのか。

【小林委員】

西戸野の神社でも舞台の老朽化に伴い修繕した。ただ、一町内の神社だったため町内で負担し修繕した。乳母獄神社も一町内の神社であり、少し引っかかるころはある。

【高橋会長】

単なる地域の神社となるとなかなか難しいことであるが、乳母獄神社は地域の文化的な価値を持っており、その隣接している舞台の修繕ということである。この場所は、小中学校も多く訪れている場所でもある。

【安達副会長】

昨日も子どもたちが加賀街道の勉強で乳母獄神社へ行った。

私たちが子どもだった頃は、安寿と厨子王の話の乳母にゆかりがあるという話を聞いていた。乳母獄神社は子育てを祈願するということで全国的に広まっていた。それは富山の菓売りが広めたのではないかということであった。また昔は地元の女性たちが、参拝客への物品を作り差し上げていた。参拝客が子宝に恵まれたとか、子どもの断乳の際にその品を神社の銀杏の木にまた掛けていったようである。

【樋口委員】

この町内には、集会場はないのか。

舞台を会合等に利用し、地域の憩いの場となっているということだが、現在雨漏りがある中で実際に行われているのか。

【小林委員】

集会場は別にあるのではないのか。

【高橋会長】

町内会館はある。

【安達副会長】

神社の草刈などをすると、舞台上で打上げなどをする。

【小林委員】

神社と別にあるものではないのか。

【安達副会長】

隣接している。

【樋口委員】

提案には「隣接の舞台」と書いてあるが、それ自体が神楽殿と受け取られやすいかと思う。

【高橋会長】

確かに微妙なところはある。各町内も神社を持っており、神楽も行っている。しかし有間川町内も70戸ほどであり、なかなか財政的に厳しく神楽は春しかやらなくなった。また舞台についても、当初は外に舞台を造っていたのだが、現在は神社の玄関のような場所を改造して、そこに板を敷き舞台としてしまった。各町内が舞台をきちんと造り、そこで神楽を実施するということは、本当に大変であり苦勞されていると思う。そのような共通した問題と安達副会長が説明されたように、後世に残したい文化遺産としての考えである。

【寺島委員】

今までイベントなど、開催されていなかったのか。

【滝澤センター長】

祭りの時の舞だけである。

【高橋会長】

先ほども言われたが、中学生が社会科の勉強で乳母獄神社の歴史を調べ、学校で発表会などを行っている。そのようなイベントは時々ある。外から訪ねてこられる人もいる。学校の先生をしていた町内会長が乳母獄神社の冊子を作られ配布されている。その本を私も読んだが、なるほどと思った。

本日の協議以外で疑問に思ったことがあればヒアリングの際に聞いていただければと思う。

【佐藤峰生委員】

町内会長の立場と委員の立場を兼ねて意見したいと思う。今年の舞台の修復をきっかけとしてイベントを開催するとあるが、この地域協議会からの提案という意味で、この舞台の修復をきっかけに毎年イベントを開催し、谷浜・桑取地区内外に広くPRしていただく。地域活動支援事業費補助金は一か年で終わるのではなく、次年度以降に繋がる事業に活用されるべきなのではないか。今年はいわどり謙信公トレイル大会や城ヶ峰砦の整備について提案が出ていない。これらも毎年継続的に提案してもらいたい。

地域協議会の総意としては、そういうイベントを継続することによって、地域の話題、PRをすべきだと思う。

【平野委員】

今の内容に関連するが、今まで何をしていたかということがある。神楽や神社に関係するようなことをやってきたのではないか。

【佐藤峰生委員】

お祭りの時には、舞を舞っていた。舞舞台であるためである。

【平野委員】

その場所を直すということは、政教分離に引っかかるのではないか。しかしそれに条件を付けるということか。

【佐藤峰生委員】

そういうことである。地域の振興のために修復したいということである。

【平野委員】

それを確実にやっていくということであれば、実施しても良いと思う。

【佐藤峰生委員】

毎年イベント等をやっただけなのであれば私は認めようと思っている。地域振興の一つの皮切りである。

【平野委員】

地域振興の行事を開催することであれば納得できる。それを町内会が約束してほしい。一年で終わってしまっては困る。

【高橋会長】

修理するだけではなく、これが一つの起爆剤となり、乳母獄神社が地域の文化遺産として見直されるきっかけとなるイベントが毎年行われれば、ここに一つの拠点ができる。また城ヶ峰砦も一つの拠点となっているかと思う。桑取地区のトレイル大会も一つのイベントとして定着し、この地域の自然が全国に知れ渡っていけば、大変良いのではないかと考えている。

他に意見等はないため終了とする。

次に、「No.3 谷浜和泉会設立50周年記念事業」についてだが、老人会が設立されて50年が経ったということで記念誌を発行し、講演会を開催するということである。

記念誌の部分で補助を受け、懇親会や発表会については、自主財源で行うという計画である。

各委員に意見等を求める。

【樋口委員】

50周年を祝うのは良いのだが、記念品代まで地域活動支援事業で負担するというのはどうかと思う。イベントを開催することは良いのではと思う。

【安達副会長】

講演会の講師への経費などに補助金を使えば良いと思うのだが、トートバックを配布して、配布された方々がそのバックを使うかが心配である。その点は考えてほしいと思う。

また、実行委員の手当てとあるが、これは補助金の対象なのか。

【千田主任】

補助金の対象経費には含まれていない。自主財源である。

【安達副会長】

了解した。

【高橋会長】

トートバックについては、次回のヒアリング結果により判断することとしたい。

次に「No.4 バレーボールを通じた青少年健全育成事業」についてだが、これはバレーボールの用具を購入することかと思う。

幼年野球には、ユニフォームの整備を支援している。そのためバレーボールについても一定の支援はあってもよいかと思う。

【滝澤センター長】

バレーボールについては選手が5名と少ないが、牧区の子ども達と一緒にになり、活動をしており、低学年の子ども達も一緒に参加しながら、何とか活動していききたいということであった。今回は、ボールとボール入れについて、15年以上経過し劣化したため整備したいとの提案である。

【高橋会長】

これについても、疑問があれば、ヒアリングの時にお願いしたい。

次に「No.5 上越市谷浜・桑取区音楽活動交流事業」についてだが、これは小学校のトランペット鼓隊の楽器の補充とくわどり収穫祭に参加するための送迎のバス代である。これは昨年も提案があり、採択したかと思う。

【樋口委員】

教育委員会でバスを手配してもらえないのか。

【安達副会長】

学校行事でバスを使う際は教育委員会からバスが出るが、これは地域行事である、くわどり収穫祭に参加するためのバスの借り上げ代である。

【樋口委員】

開催場所である「くわどり湯ったり村」からはバスが出ないのか。

【高橋会長】

主催者であるくわどり収穫祭実行委員会で経費を負担できるかであるが、主催者側も予算がないかと思う。ただ、くわどり収穫祭に児童が参加しないと、イベントとしては寂しくなる。トランペット鼓隊の演奏が一つの大きな出し物であり、子ども達も発表の場として張り合いになっているかとも思う。

次に「No.6 共に生き、地域の共生・連帯を後世に伝える事業」についてだが、中学校の校門横にある像の修復についてである。

【滝澤センター長】

補足させていただく。提案当初は、像の修繕と囲い（屋根）を造りたいということであった。その後、提案者と協議し、囲いに係る部分を除いた像の修繕のみを実施する提案となった。

【安達副会長】

学校としても修繕に関して、製作者に打診していたようである。学校へ行って確認したが、像の状態はひどいものである。

【高橋会長】

製作者が了解済みということであれば、修繕しても良いかと思う。

【坪田委員】

製作者と直接会ったようである。了解は得られているようである。

【高橋会長】

今回の修繕後、何年か後には再度修復の話が出てくるかと思うが、それはその時に聞きたいと思う。

【平野委員】

修繕後、どれくらい維持できるのか聞いてみたい。5年ぐらいという回答であれば、建替えのほうが良いのかも知れない。

【高橋会長】

以上で採択審議前の全体協議は終了とする。ほかに質問等があればヒアリングの時にお願いしたい。疑問点等があれば、本日の内容を含め、事務局から提案者に照会をお願いする。

【樋口委員】

提案団体に、もし補助希望額の半分となった場合、事業を本当にやる気があるのかという話をしてもよいか。

【高橋会長】

一部不採択という考え方もできる。内容を減らすか、団体の自己負担を増やすか、ということになる。減額等については、ヒアリングの段階で確認したい。

【平野委員】

ヒアリングの時に、減額とすることを分かってもらう必要がある。こちらで強制的に金額を修正するわけにはいかないと思う。

【安達副会長】

地域協議会として認められない場合は、通告するしかない。

【樋口委員】

10分の10以内となっているので、10分の1でも良いということになる。そして、

10分の1しか採択されなかった場合、やる気があるかどうかである。

【高橋会長】

自主財源がない場合は、やめるということになるかもしれない。

ヒアリングの段階で、ここは自主財源でお願いしたいという提案をしながら協議会としては認めていくという話をしたい。それが駄目であれば、採択できないということになるかと思う。

【安達委員】

提案時に確認事項として、もし採択されない場合はどうするかという話があるかと思う。

【滝澤センター長】

審議の結果により、提案者が一部不採択では事業ができないとなれば、取下げということもある。しかし、実施するというのであれば、一部不採択の部分は自主財源で実施するということになる。それは提案者の考えであるが、そこは事務局として確認しながら進めていく。

【高橋会長】

では、次に「その他」について事務局へ説明を求める。

事務局に発言を求める。

【千田主任】

- ・今後のスケジュールについて説明
- ・次回協議会：5月30日（水）午後7時から

【平野委員】

今回の提案状況を見ると追加募集があると思うが、なかなか提案が出てこないと思われる。そこで、各町内にある町内会館について、一町内あたりの上限を決め、修繕等にかかる費用も補助対象として募集してはどうか。とにかく配分額に達するよう対策をする必要があるのではないかと思う。このまま追加募集で皆さんに呼びかけたとしても、提案は出てこない。

【小林委員】

当補助金は税金である。無理に使うべきではない。

【樋口委員】

追加募集を前提に計画された提案は、好ましくないと思う。なぜ一次募集で提案しな

いのか疑問である。

【高橋会長】

役員会の日程などがあり、一次募集には提案できない団体もある。そのような場合も確かにあるので、追加募集までは実施したいと思う。今までも追加募集は、1回は行うが、そこで残額が出ても三次募集は実施してない。

その中で、平野委員から町内会館に関するものも場合によっては若干含めて良いのではという話も出た。それについては、また協議会で検討をする余地があると思う。検討は、この審査が終わった段階でも間に合うので皆さんの念頭に置いていただきたい。

【佐藤峰生委員】

先ほどの話と重複するが、町内会館を整備するということをきっかけにして、次に繋げていくという部分がセットでなければならない。例えば今年は図書を整備し、それを使って翌年はこれをする、三年目はこれをするというような提案をするべきだと思う。そのようにして各町内に提案する内容を真剣に考えてもらうことで、事業が一町内だけではなく、谷浜・桑取地区全体につながっていく。そのような具体例が出れば、他の町内からも提案が出てくると思う。先の茶屋ヶ原の舞台は、一つの例である。

そうすれば補助金の有効活用ができる。

【高橋会長】

今までも、町内会館の前のスロープを直した町内や花壇を整備した町内、花壇の整備と駐車場を舗装してもらった町内がある。ただハード整備を行うのではなく、環境整備を含め、地域の皆さんが町内会館を利用しやすくすることにより利用が進み、そこで交流ができれば、それも一つの地域活性化となる。

【佐藤峰生委員】

提案事例を地域協議会として地域にPRすべきであると思う。

【高橋会長】

これは町内会長協議会などを通じて共通認識を持つ必要がある。

ほかに何かあるか。

【滝澤センター長】

次回以降の地域協議会の開始時刻を午後6時30分に変更できないかという意見が委員からあった。このことについて協議をお願いします。

【高橋会長】

— 意見調整 —

- ・ 3回目以降の地域協議会の開始時刻を午後6時30分に変更
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。